

商店街サポーター支援事業との連携について

三重県戦略企画部企画課

1 「商店街サポーター支援事業」との連携について

「商店街サポーター支援事業」とは、三重県商店街振興組合連合会が主催の事業で、にぎわいのある魅力的なまちづくりのために、商店街関係者と学生等が話し合う意見交流の場を設け、商店街等を支援する持続可能な仕組みづくりを検討するものです。

平成24年度は、四日市市の商店街をモデル地区として、仕組みづくり検討委員会と下部組織の学生部会を設置し、商店街側、学生側のニーズ、課題等を取りまとめました。

学生部会には、四日市大学、鈴鹿工業高等専門学校、皇學館大学の学生が参加し、計3回開催されました。

第1回学生部会：平成24年10月17日（水）

第2回学生部会：平成24年11月 7日（水）

第3回学生部会：平成24年12月19日（水）



学生部会は、四日市市の諏訪商店街の中にある、文化の諏訪駅にあつまり、意見交換をしました！

2 学生部会の役割について

学生部会は、商店街等の関係者で構成される仕組みづくり検討委員会の下部組織として、学生同士が学生側のニーズ把握や具体的な提案等を議論する場です。

学生部会の役割としては、大きく以下の3点があります。

- ① 商店街等を支援する仕組みづくりに向けて、持続可能で、学生側にもメリットがある仕組みとするため、学生の立場から、現状や課題、ニーズ等を伝える。
- ② 仕組みづくりに向けて、協力してもらえる学生を確保するために、学生に対してどのようにPRすべきかについて、具体的な方法を検討する。
- ③ 商店街関係者等と連携し、モデル事業の企画運営等を行う。

3 学生部会での議論について

第1回学生部会【平成24年10月17日(水)開催】

第1回学生部会では、「学生の現状」、「学生の地域活動に対するニーズ」、「学生への情報提供の在り方」について意見交換しました。

学生生活や学生の地域活動の現状について

学生からの主な意見としては、地域活動への参加する時間的な制約やボランティア情報の不足、参加のきっかけや動機付けが必要であることなどの意見がありました。

学生の現状についての主な意見

(1) 時間的制約

- ・土日はある程度時間がとれるが、平日は厳しい。
- ・留学生は(アルバイトなど)土日参加が難しい。
- ・部活のある学生は土日参加が難しい。
- ・就職に活かせるなどメリットが必要。
- ・何かやりたいけど、どうしていいかわからないという声もある。
でも、実際やろうとなると来ない
なぜ? メリットが必要。面白いとかも含めて。
- ・就職活動などがあり、在学期間を通しての活動はできない。

(2) 動機づけの必要性

- ・委員会等、参加を強制するものがないと難しい。
- ・ボランティアに1人で参加するのは気がひける。
- ・ボランティアに興味がある人の背中を押すことが必要。
- ・一度強制的にやって、楽しいと思えば良い。

(3) 情報の不足

- ・学部ごとにボランティアをしていて、学部間での情報が伝わらない。
- ・Facebookなどで一部共有されるものもある(が情報は不足)

また、学生の地域活動への参加を促進するためには、学生にとってのメリットが必要であるとの意見があったことから、どのようなことにメリットを感じるかについて話し合いました。

学生にとってのメリットについての意見

- ・就職活動につながる体験ができる（履歴書に書ける）
- ・美味しい食べものなどが発見できる。
- ・他校、学生間での交流ができる。
- ・地域で活動する方々（アラウンド・フォーの皆さん）など、新しい人脈ができる。
- ・自分の街を知る機会になる。四日市大学の学生はもっと四日市を知るべき。
- ・ボランティアの単位化（カリキュラム化）について
学生の参加は増えるのか？ 増えると思う
元々やる気のある子のモチベーションは下がらないのか？
多分下がらない。

地域活動に対する学生のニーズについて

次に、学生が地域活動にどんなことを期待するかについて意見交換を行いました。

学生からは、「自分たちが主体となって工夫や発想を生かしながら取り組む活動」を求める声や、「地域の方や他校の生徒等との交流を通して学生生活が充実できるような参加の在り方が望ましい」との意見が出されました。

主な意見

(1) 参加の仕方

- ・ 学生が主体となって企画等を検討したい。
行政等が間に入ってもらって参加しやすい環境をつくってほしい
「空き店舗を自由に使って して欲しい」等の条件付けは構わない
- ・ 地域や行政に企画や提案をしたい。
- ・ 頭、発想を使いたい。

(2) 求める成果

- ・ 明るい他校の学生と出会う。
- ・ 学生生活を充実したい。
- ・ 地元の大学の生徒が自分の街に関わるべき。
- ・ 各校の活動の発表の場も提供してもらえれば励みにはなる。

情報提供の在り方について

最後に、より多くの学生に地域活動への参加を呼び掛けるための効果的な手法について意見交換しました。

学生からは、掲示版や一斉メールなど不特定の対象に広くあたる方法よりも、友人や

担当教諭など顔の見える関係での募集や案内が効果的との意見がありました。

主な意見

- ・ 学生間ではメールでの情報交換が多い。
- ・ 先生からより、友人からの誘いが有効。
ひとりで行くのがイヤという意識がある
- ・ SNSは広く配信するだけで伝わらない。
- ・ 実際に活動に関わっている友人などから、詳しい内容を聞かない活動の内容がわからない。
- ・ 大学事務局からのメールは事務的な連絡と思い込み、きちんと確認されない
- ・ ゼミの先生や担当教諭からのメールは確認する。

第2回学生部会【平成24年11月7日（水）開催】

第2回学生部会では、「仕組みづくり検討委員会から提案された仕組み案」、「学生への情報提供の内容（コンテンツ）」について意見交換しました。

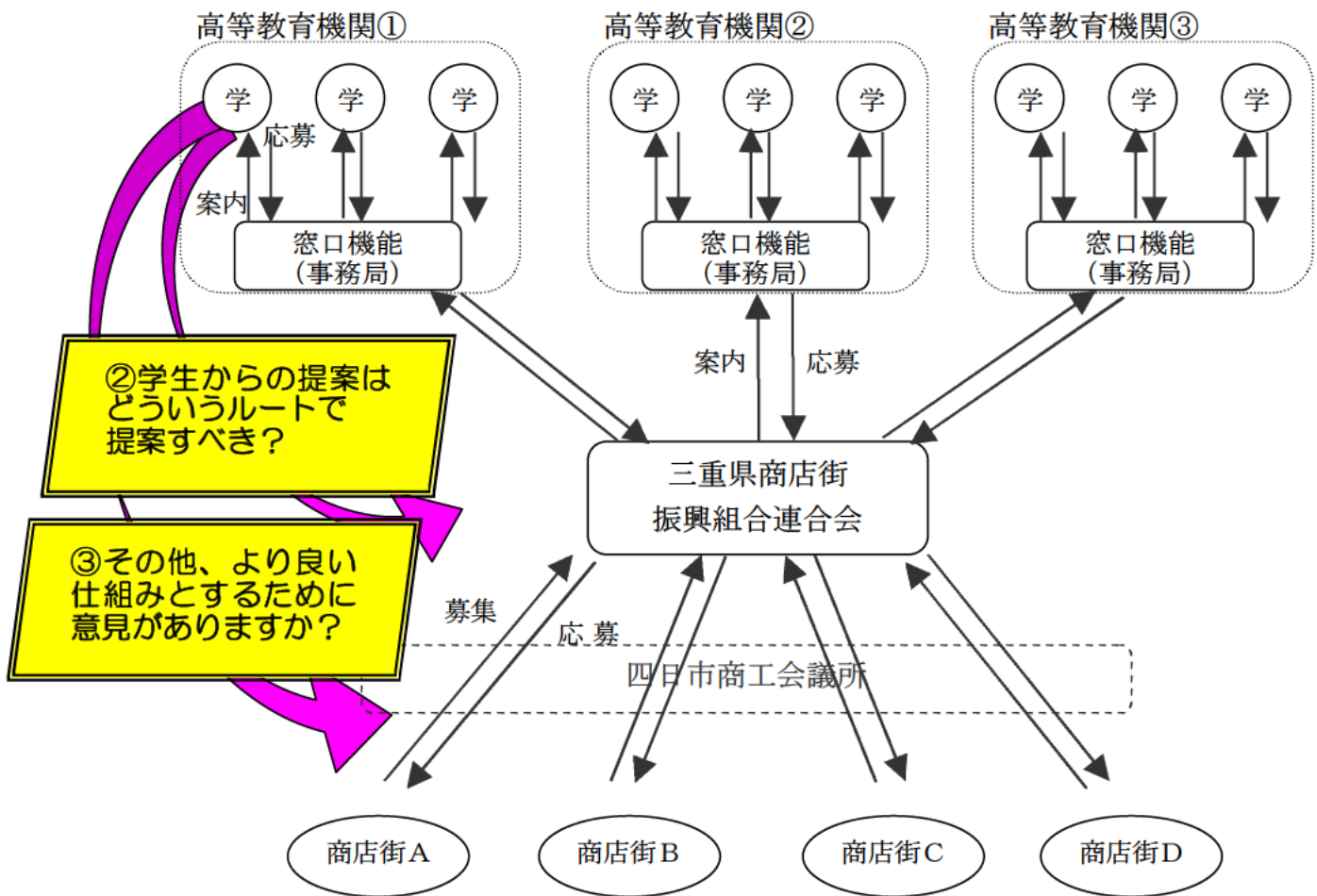
1) 提案された仕組みについて

まず、第2回仕組みづくり検討委員会で議論され、提案された仕組み案について以下の3点について意見交換を行いました。

①学校事務局から先の案内はどんな方法が良いか？

【第1回学生部会での意見より】

- ・事務局のメールは見ない
- ・SNS等は広く浅く
- ・先生や友人の情報は確認する 他



学生からの主な意見

学校事務局から先の案内はどんな方法が良いか？

- ・ 広く周知が必要な場合は、各大学事務局などから一斉メールなどで配信してもらうことになるかもしれないが、なかなかそれだけでは、募集などに人が集まらないのではないかと。学生間などの口コミが一番確実。
- ・ 学生間のネットワークは、各学校とも形は違っていても既にあるので、そこにつなげていく方法を考えてはどうか。(各校のリーダーとなる学生のネットワークなど)
- ・ 留学生会は、大阪にある本部から各学校のリーダー(留学生)へ情報が発信され、リーダーから他の留学生へ情報が伝達されるというシステムが既にある。このような仕組みを併用することも大切。
- ・ 提案してもらった仕組みは、各校への縦への情報提供なので、例えば三重県在住だけど、県外の大学へ通っている学生には、情報が広がらないというデメリットがある。
- ・ 中高生向けに「ナキワラ」というネットワーク組織がある。これは、運営、企画など全てを中高生が行っており、「さまざまな人と出会うなかで、地域や学校の枠を越えた「自分づくりのネットワーク」を広げていこう」というコンセプトで作られている。最終的には、このような高等教育機関の学生ネットワークも必要ではないか。
- ・ 各高等教育機関によって、教室の入り口でのディスプレイ表示や、学内メール配信、ボランティアルームへの掲示などさまざまな情報提供のやり方があるので、それらを活用できるように各校へ協力依頼していくことも必要。

学生からの提案はどういうルートで提案すべき？

- ・ 第2回仕組みづくり検討委員会での概要で、「今まで商店街が培ってきた文化を荒らされたくないの、学生に企画・運営など全てを任せるのは難しい」という意見が出されたようだが、学生側には、文化を荒らすという意識があるわけではなく、その文化を知らないだけなので、もっと商店街の人と学生と一緒に話をする場が必要だと感じる。

学生と商店街の人が一緒に話し合う場で、商店街の皆さんがどういうことを大事にしていて、どうしてほしいと考えているのかを教えてください。

商店街も学生を「労働力」としてしか見ていないように感じてしまう。もっとお互いを知る場が必要ではないか。

その他、より良い仕組みとするために意見がありますか？

- ・ 商店街の人と学生と一緒に何ができるかを考えるために、学生部会の拡大版として、いろいろ商店街の人と意見交換できる場を一度もってはどうか
(次回の学生部会に商店街の人も参加いただいてはどうか)
- ・ 現行案の仕組みは、三重県商店街振興組合連合会と大学事務局が間に入っているので、学生と地域の方との関係性が希薄に感じる。参加者を募集する仕組みとは別に、地域毎に学生と地域の方が関わることができる場が必要ではないか。

2) 学生への情報提供の内容(コンテンツ)について

次に、実際に商店街から学生へ募集したい内容を流す際、学生側に必要な情報について意見交換を行いました。

学生からは、「どういう学生を求めているのかがわかるようにしてほしい」「単発での労働力を求めているのか、継続的な関わりを求めているのかによっても学生の興味の持ち方が違う」などの意見が出されました。

学生からの主な意見

- ・ お祭りの人手が足りないということであるが、神輿や山車などは、地域の文化などを知らない人がいきなり関わって大丈夫なのかという不安がある。力仕事をしてほしいというのであれば、運動部の学生などでもいいのかもしれないが、どういう目的でどういう学生を求めているのかをもっとわかるようにしてほしい。
- ・ イベント時だけの単発的な募集なのか、企画から関わるなど継続的なつながりが持てるのかによって、学生の興味も異なってくるので、それがわかるようにしてほしい。
- ・ その他、具体的な内容としては、以下のような内容も必要。
 - 誰が主催するイベントや企画なのか
 - 申込の仕方、募集の〆切、問い合わせ先
 - 対象はどのような学生なのか(例：留学生でもOK?)
 - 参加する側が負担するもの(交通費の有無、学生が負担する費用、持ち物など)
 - 募集する人のコメントなど、相手の思いが感じられるほうが伝わる。

(参考) 津地域のボランティア情報誌HAMACHIのボランティア基本情報

タイトル ボランティアの活動内容 活動することで得られる(期待できる)効果
回数・頻度 持ち物 交通手段 募集人数 活動場所 その他 連絡先

3) 学生側からの活動例について

若者を集客するためのイベントなどの企画・運営を学生と商店街の人と一緒に考えてはどうか。それを毎年の恒例行事とすることで、学生が入れ替わっても、続いていくのではないか。

例) 合同学園祭

各高等教育機関のブースを設け、そこで各校の取組をPR。

国際パーティ、婚活パーティなどの企画・運営

学生によるお店や情報発信の場の設置

店舗まるまるでなくてもよい。一角に棚などを置いて、そこを自由に使って何か商品をディスプレイする。アイデアを売るなどの学生から発信できる場を確保する。

第3回学生部会【平成24年12月19日（水）開催】

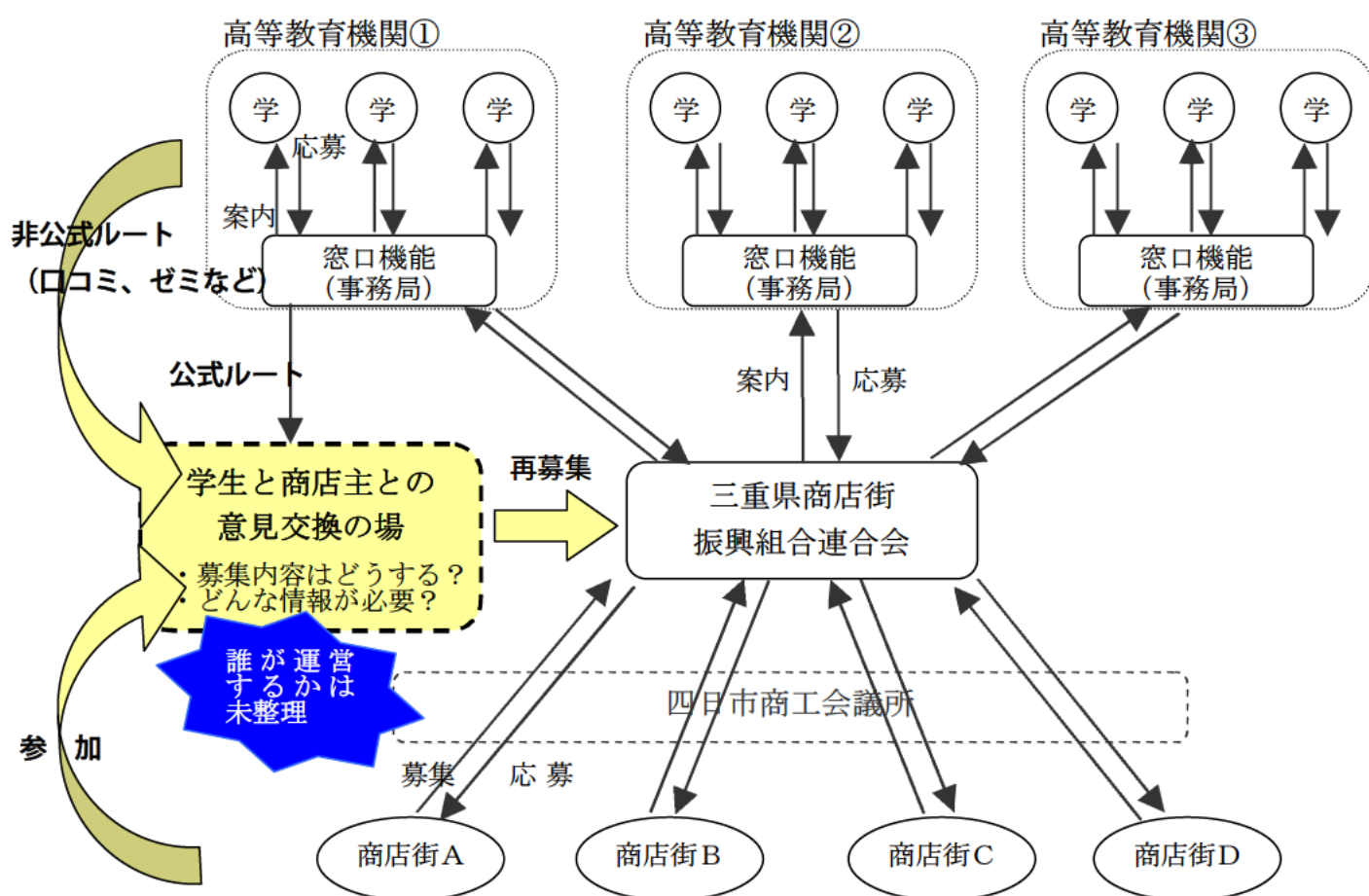
第3回学生部会では、「第3回仕組みづくり検討委員会です承された仕組み案」、「商店街の現状と学生との具体的な連携」について意見交換しました。

1) 「第3回仕組みづくり検討委員会です承された仕組み案」について

※企画課より、商店街の取組に学生を募集する仕組み案（四日市モデル）を説明

【参加者からの意見】

- ・学生に興味を持ってもらえる募集案内を発信することが重要。取組毎に前捌きとして「学生にとって魅力的な内容となっているか」「必要な情報が案内に盛り込まれているか」等を学生と商店主で意見交換する場が必要ではないか。



2) 商店街の現状と学生との具体的な連携について

①商店街の現状について

次に、商店主と学生が一堂に会する機会は今回が初めてであることから、商店主の皆さんから四日市駅前商店街の現状についてお話を伺いました。

【参加者からの主な意見】

< 商店主より >

- ・ 少子化や郊外型商業施設の進出により商店街に若い人の姿が見られなくなってきた。また、高齢化により店を閉める商店主が増えた結果、シャッター街化が進んでいる。
- ・ 地元若者が集まらなくなり、祭りをするにも山車の担ぎ手などの人手を集めにくくなっている。
- ・ 既存のコミュニティへ余所者がいきなり入ってきて色々と提案しても地元では聞き入れにくいので、こういう場を通じて皆さんに歴史や文化を知ってもらいたいし、そうすることで歴史・文化を守りたいと考えている。
- ・ 安城市では「サマーフェスティバル」を開催し、世代を通じた「遊び場」「集いの場」づくりに成功している。若い人に集まってもらって楽しんでもらう場が必要。
- ・ 商店街としては学生に主体的に参加してほしい。消極的な参加だとアレコレと指示を出す必要があり疲労感が大きい。ただし、伝統文化などについては、ある程度地域の意向を踏まえた行動が必要。

< 学生より >

- ・ 若者にとっては郊外型の店舗の方が品揃えも良いし、駐車所もあるので車での利用が便利。商店街のお店には「こんなものしか置いてないのか」という店もある。
- ・ 若者にとっては例えば食べ歩きや親子が参加して楽しめるイベント等が必要ではないか。今の商店街はパチンコ、カラオケ、居酒屋ばかりで何が魅力が分からない。
- ・ 地域が学生に対して何をどこまで期待するのか明確にしておく必要がある。正確な情報を伝達できないと地域に迷惑を掛けることになる。

学生との具体的な連携について

その後、商店主の皆さんから学生と連携した取り組むことが考えられる具体的な内容についてご提案いただくとともに、学生と意見交換を行いました。

【参加者からの主な意見】

< 商店主より >

- ・ 文化の諏訪駅の1階には四日市FMのスタジオがあり来年から週1時間程度の枠をもらって番組を製作する話がある。学生による番組を追加枠としていただくことも可能ではないか。
- ・ 秋祭りに向けて学生との連携を検討できるのではないか。
- ・ 4月に諏訪商店街を中心に開催するエキサイトバザールでの1ブース(テント)を学生に提供するので、環境等をテーマに自由な発想で何か取り組んでいただいてはどうか。

< 学生より >

- ・ 学生の中には FM 番組に興味がある生徒がいるのではないか。
- ・ エキサイトバザールへ出展する展示物などもあるかもしれない。
- ・ 物販等について何かできるかも知れない。

など

4 今後の展開について

それぞれ3回開催した仕組みづくり検討委員会及び学生部会において、商店街サポーターの仕組み（組織）案についてとりまとめたことから、今後は、実際にこの仕組みがうまく機能するかを、実際のイベントの企画運営を通して検証していくことが提案され、4月のエキサイトバザールについて、学生部会のメンバーを中心に具体的な検討を商店街関係者と一緒に議論しながら進めていくこととなりました。